要望書

≪ 国 道 3 4 9 号 整 備 促 進 に つ い て ≫

【平成24年10月】

国道 3 4 9 号建設促進期成同盟会 会 長 **根** 本 **匠**

国道349号の整備促進について

国道349号は、昭和50年4月に国道へ昇格以来、貴県の特段のご 高配により漸次改良整備が進められ、着々とその成果が得られておりま すことに厚く御礼を申し上げます。

ご承知のごとく国道349号は、茨城県水戸市を起点に福島県の阿武 隈山系を縦断しながら宮城県柴田町に至る実延長約260km、沿線3 県・18市町村に及ぶ路線であります。

本国道は、阿武隈山系を縦断するという路程からその多くが山間部を 通過しており、未だ各所に幅員が狭隘で、かつ、屈曲の甚だしい箇所が あり、また、沿線市町村の中心市街地等を通る路線では、歩道等交通安 全施設の整備が遅れているため、近年の通行量の増加、特に大型車両の 増加によって歩行者の安全が脅かされているなど、地域住民より一日も 早い改良整備が強く求められております。

道路は、人と暮らしを支え、豊かな地域社会を形成する上で最も基本的な社会資本であることは言うまでもなく、道路網の整備なくして、地域の発展は成し得ません。

さらに未曾有の被害をもたらした東日本大震災では、道路は支援物資の運搬や緊急車両の通行など「命をつなぐ道」として、その重要性が再認識されたところであり、特に、高速道路等幹線道路の機能が失われた際にその機能を補完できる道路網の整備が改めて重要視されております。

つきましては、沿線市町村の振興発展と沿線住民の安全・安心の確保、 そして幹線道路災害時の補完機能を強化するためにも、沿線市町村が求める整備促進要望箇所について、早急に整備されるよう強く要望いたします。

国道349号整備促進要望箇所(茨城県)

| 県 | 丰町壮夕 | 要望 | 要望 | 笛 | 所 | 事 | + | 坐 夕 | |
|-----|-------------|----|-----------------|----|---------|-----|----------|------------|---|
| 名 | 市町村名 | 番号 | 箇所名 (地名) | | 延長 m | 事業名 | | | |
| 茨城県 | 那 珂 市常陸太田市 | 1 | 那珂市杉~ 常陸太田市瑞 | 龍町 | 10, 400 | 道 | 路 | 改 | 良 |

| 要望 番号 | 市町村名 | 茨城県那珂市・常陸太田市 |
|----------|------|---------------|
| 1 | 要望箇所 | 那珂市杉~常陸太田市瑞龍町 |



| 事 業 名 | 道路改良 | | | |
|-------|--------|--|--|--|
| 延長(m) | 10,400 | | | |

≪現状と要望事項≫

那珂市杉~常陸太田市瑞龍町までの延長10,400mについては、福島県及び茨城県北部から茨城県都である水戸市及び常磐自動車道那珂ICへのアクセス道路として重要な役割を担う路線でありますが、2車線のため、朝夕のラッシュ時や行楽シーズンには、数キロにも及ぶ大渋滞が生じております。

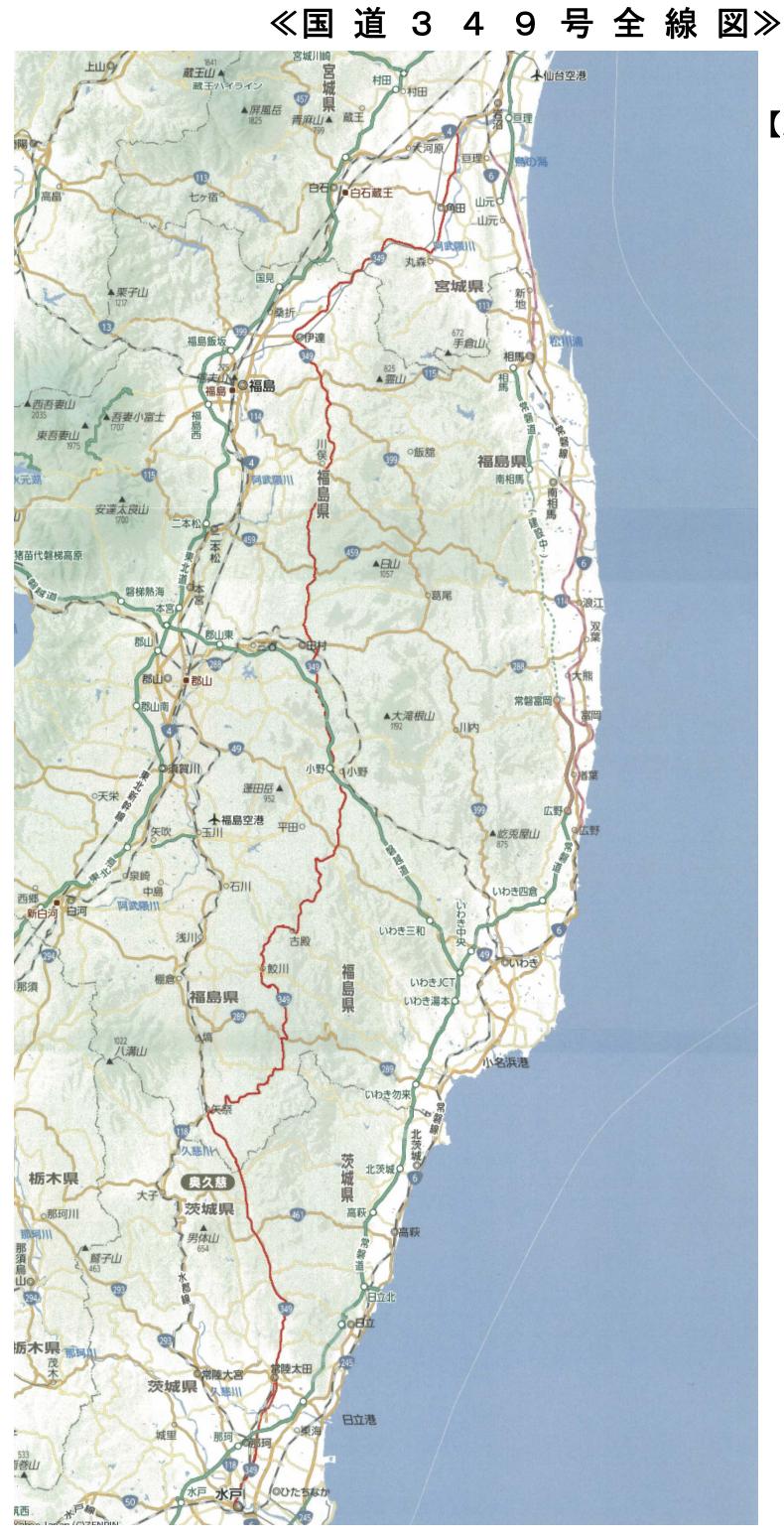
つきましては、既に拡幅予定部の用地が 確保されている状況にありますので、早急 に4車線化を図れるよう強く要望いたし ます。



国道349号建設促進期成同盟会構成 員

会長根本 匠

高 橋 靖 (茨城県 水 户 市 長) 吉 成 明(茨城県日立市長) 副会長 大久保 一 (茨城県 常陸太田市長) 太 海 徹 (茨城県 那 珂 市 長) 野 渡 敬 夫 (福島県 いわき市長) 辺 張 允 (福島県 矢 祭 町 長) 古 副会長 文 (福島県 塙 基 長) 葯 池 町 大 樂 勝 弘(福島県鮫川村長) 徳 (福島県 古 殿 町 岡 部 光 長) 澤 明(福島県 平 田 村 和 村 長) 三 (福島県小野町長) 宍 À 良 **暻**(福島県 田 村 市 長) 冨 塚 宥 Ξ 保 恵 一 (福島県 二本松市長) 古 郎 (福島県川 俣 町 長) 川 道 仁志田 昇 司 (福島県 伊 達 市 長) 副会長 保 雄 (宮城県 丸 森 町 長) 科 郷 大 喜 助(宮城県角 市 長) 友 田 滝 茂 (宮城県 柴 町 長) 口 田



【沿線市町村】

◎宮 城 県

柴 町 田 角 市 田 丸 森 町

◎福 島 県

達 伊 市 俣 Ш 町 本 松 市 村 市 田 野 小 町 わき 市 61 平 村 田 殿 古 町 鮫 Ш 村 塙 町 祭 矢 町

◎茨 城 県

常陸太田市 立 市 日 那 市 珂 水 市 戸